

工場
ルポ

1966年(昭和41年)日本で初めて紫外線(UV)吸収剤の製造・販売を開始し、この分野のバイオニア企業であるシプロ化成(白石泰章代表取締役社長。89年(平成元年)には福井県テクノポート福井に大規模な工場用地を取得。その後、2000年に明石兵庫県と大阪の2工場を福井に集約した後、今日まで福井を本拠に国内外で樹脂をはじめ広範な用途に使われるUV吸収剤のリーディングカンパニーとして歩を進めてきた。来年には会社創業60

来年創立60周年、さらなる飛躍へ

シプロ化成 本社・福井工場



白石社長

周年という大きな節目を目前に控えUV吸収剤、酸化防止剤、防錆剤の3分野と次代に継ぐ新規分野開拓にも注力中の同社。本社・福井工場を訪れた。

国内屈指の化学企業入居と化学産業集積を誇る北陸のテクノポート福井。広大な用地に多くの化学系企業が進出、製造展開を進めるなか、テクノポート福井のほぼ中央に位置するのがシプロ化成だ。追加の用地取得で

紫外線吸収剤や酸化防止剤など
主力事業を拡充

社員が快適に作業に取り組むため会社と工場の福利厚生も手厚く対応している(写真は50ト反応釜設備)

約2万坪の敷地面積を持つ本社・福井工場でも追加するフライングキミ員が主力のUV吸収剤を

超高純度材料、生分解性プラスチック向けの新たなUV吸収剤(大阪公立大学、大阪産業技術研究所との連携研究)など新規領域へ取り組む研究開発部門のスタッフも日夜、次のシプロ化成を支えるR&Dに注力中だ。新大阪駅(大阪市)の近くに所在する営業本部と福井の本社、R&Dが三位一体となり、来年の60周年をステップに「さらに持続成長可能な事業と会社」を目指している(白石社長)。

次世代分野にも注力

の福利厚生も一定に手厚く対応(白石雅和取締役・本社管理部長)しており、白石社長も「今、働いている人々が辞めることのない職場」を常に意識しているという。

本社・福井工場には、段階的に整備してきた8棟の生産工場棟と4棟の乾燥工場棟が極めて機能的にレイアウトされているのが特徴の一つ。どの工場棟も、ほぼ同一のデザインで、真ん中にフオークリフトや作業車などが行き来するスペースが取られ、工場棟同士の間に立てば、双方の工場棟と通路が見渡せ「生産や作業効率を考えたかたちだが、見えることで作業にかかわる安全上の向上にもつながっている」(毛利久直取締役工場長)。小容量から中容量、さらに大容量の多種多様な反応釜と設備が各棟に配置されており、ワンパ

界市場で「層の揺るぎないポジションを持つシプロ化成へまい進していく。(沼澤憲一)